

令和 7 年度

事業報告書



2026 年（令和 8 年）6 月

公益財団法人横浜市スポーツ協会

【目 次】

I 事業の状況	- 1 -
1 競技スポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号】	- 1 -
2 地域スポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号、第5号】	- 3 -
3 健康・体力づくりの推進事業【定款第4条第1項第1号、第3号、第4号、第5号】	- 4 -
4 スポーツ人材の養成・育成・活用事業【定款第4条第1項第1号、第4号】	- 8 -
5 スポーツ情報の収集・提供と調査研究【定款第4条第1項第2号】	- 9 -
6 インクルーシブスポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号、第5号】	- 9 -
7 スポーツ団体育成・支援等事業【定款第4条第1項第1号、第5条第1項第2号】	- 11 -
8 スポーツ施設の運営事業【定款第4条第1項第5号、第5条】	- 12 -
9 その他事業	- 22 -
II 処務の概要	- 23 -
1 評議員に関する事項【定款第11条】	- 23 -
2 役員に関する事項【定款第22条】	- 25 -
3 職員に関する事項【定款第42条】	- 26 -
4 委員会に関する事項等【定款第43条】	- 27 -
5 加盟団体に関する事項【定款第44条】	- 27 -
III 資料	- 28 -
1 中期計画達成状況	- 28 -
2 賛助会員	- 29 -

I 事業の状況

1 競技スポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号】

幅広い市民を対象とした各種競技会・大会等のスポーツを実践できる場と機会を提供することで、競技スポーツを推進しました。

(1) スポーツ助成事業

ア 市民スポーツ大会・市民マスターズスポーツ大会

競技団体が主管し大会運営を行う、市民スポーツ大会及び市民マスターズスポーツ大会を実施しました。

	市民スポーツ大会	市民マスターズスポーツ大会
実施競技数	33 競技	23 競技(1 競技中止)
参加人数	33,927 人(前年度 36,413 人)	10,342 人(前年度 9,950 人)

種目	軟式野球	テニス	ソフトテニス	水泳	卓球	弓道	サッカー
市民大会	275 人	3,266 人	3,882 人	1,320 人	792 人	333 人	1,250 人
マスターズ	1,157 人	52 人	132 人	711 人	305 人	132 人	3,250 人

種目	ラグビー	陸上競技	相撲	ハンドボール	スキー	バレーボール	ソフトボール
市民大会	257 人	2,202 人	63 人	2,295 人	288 人	1,200 人	5,150 人
マスターズ	200 人	223 人	0 人	555 人	45 人	-	1,700 人

種目	体操	バドミントン	バスケットボール	馬術	剣道	ボクシング	レスリング
市民大会	180 人	2,662 人	4,500 人	77 人	197 人	57 人	84 人
マスターズ	-	-	300 人	-	136 人	-	-

種目	ウェイトリフティング	なぎなた	アーチェリー	ボウリング	空手道	ゲートボール	ローイング
市民大会	46 人	154 人	54 人	112 人	2,016 人	-	422 人
マスターズ	-	-	-	37 人	227 人	278 人	404 人

種目	少林寺拳法	インディアカ	綱引	ダンススポーツ	スポーツチャンバラ	日本拳法	グラウンド・ゴルフ
市民大会	118 人	169 人	288 人	82 人	85 人	51 人	-
マスターズ	2 人	101 人	-	102 人	12 人	-	281 人

イ 各区交流スポーツ大会

加盟地域団体及び競技団体と連携して、市内 18 区間のスポーツ交流大会を実施しました。

種目	卓球	インディアカ	弓道	剣道	テニス	ソフトテニス	軟式野球	バドミントン
参加人数	212 人	99 人	106 人	38 人	180 人	174 人	550 人	204 人
合計	1,563 人(前年度 1,073 人)							

ウ ジュニア競技力向上事業(合同強化練習)

競技団体の開催する、小・中・高校生を対象にした合同強化練習事業を実施しました。

実施団体	14 団体
参加人数	2,083 人

(2)スポーツ大会支援事業

大規模スポーツ大会の円滑な開催のため、運営組織への参画等の支援活動を行いました。

ア 世界トライアスロンシリーズ横浜大会支援事業

(大会主催：世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会)

トップアスリートが出場するエリート大会は、荒天となりましたが、34 の国と地域から、エリートパラ 66 名、エリート 89 名の選手が参加し熱戦を繰り広げました。一般の方を対象としたエイジグループ大会は、天候にも恵まれ、10 代から 80 代までの幅広い年齢層の 1,505 名が参加し、多くの友人・家族が目の前で応援する姿や、笑顔で完走を称え合う様子が溢れていました。

部門	【エリート】 【エリートパラトライアスロン】 世界のトップアスリートによる 世界最高峰の国際大会	【エイジグループ】 都市型トライアスロンとして 日本最大規模の一般大会
開催日	5月17日(土)	5月18日(日)
コース	山下公園、日本大通り、 赤レンガ倉庫、大さん橋	山下公園、山下ふ頭、 象の鼻パーク
出走者数	155 人 (2024 年:200 人)	1,505 人 (2024 年:1,427 人)
参加国数	34 の国及び地域	15 の国及び地域
観戦者数	2日間合計約 27 万人	



イ 横浜八景島トライアスロンフェスティバル支援事業

(大会主催：横浜シーサイドトライアスロン大会実行委員会)

「こどもから大人まで、ファミリーで楽しめるトライアスロン大会、横浜八景島を満喫しよう」を合言葉に、誰もが参加でき楽しめる大会として、今回で 13 回目の開催となりました。SNS 等を活用した広報により、前年実績を上回る 845 人の参加者となりました。



種 目	スプリント、パラトライアスロン、リレー、ファミリートライアスロン、アクアスロン、 パラアクアスロン、ペアアクアスロン、デュアスロン、キッズデュアスロン、ジュニアデュアスロン
開催日	9月28日(日)
出走者数	845 人
完走者数	797 人(完走率 94.3%)

ウ 横浜マラソン 2025 支援事業

(大会主催:横浜マラソン組織委員会)

横浜マラソン 2025 は、幅広い年齢層の方にご参加いただき、国内外から約 2 万 8 千人のランナーが横浜の街を駆け抜けました。

種 目	フルマラソン、ペアリレー、みなとみらい 7km ラン、 湾岸ハイウェイラン、 ファンラン(車いす・ファミリー・中学生)
開催日	10 月 26 日(日)
参加人数	28,770 人
完走者数	27,547 人(完走率 95.7%)
沿道応援者数	約 36.3 万人



(3)スポーツ大会派遣事業

第 37 回全国健康福祉祭ぎふ大会(ねんりんピック岐阜 2025) 参加選手選考に必要な支援・助成を行うと共に、横浜市代表選手を大会に派遣しました。

種 目	卓球、テニス、ソフトテニス、ソフトボール、ゴルフ、 弓道、剣道、水泳、ラグビー、サッカー、ウォークラリー、 太極拳、ターゲット・バードゴルフ、ダンススポーツ
開催日	10 月 18 日(土)～21 日(火)
参加人数	126 人



2 地域スポーツ推進事業【定款第 4 条第 1 項第 1 号、第 5 号】

身近な場所で気軽にスポーツやレクリエーション活動に参加できる環境を整えることで、地域のスポーツ活動を推進しました。

(1)地域スポーツ支援事業

ア 地域へのスポーツ支援

区民に密着した活動を行っている加盟地域団体や、スポーツ推進委員、地域で活動しているスポーツ関連団体等と連携・協力し、身近な場所で気軽にスポーツに親しむことができるよう、地域のスポーツ振興を支援しました。

イ さわやかスポーツ事業

いつでもどこでも気軽にできる「ヨコハマさわやかスポーツ」の普及を、地区活動等を通じて行いました。

事業名	開催回数	延べ参加人数
地区活動	2,716 回	44,291 人
各区大会	29 回	1,894 人
各区フェスティバル	36 回	9,811 人
講習会	16 回	343 人
その他	1,320 回	78,998 人
普及委員会	119 回	1,211 人
合計	4,236 回	136,548 人



(2) スポーツイベント開催事業

ア 第 36 回よこはまシティウォーク

令和 8 年 3 月 20 日（金・祝）、横浜シンフォステージ（みなとみらい中央地区）を発着会場として、第 36 回よこはまシティウォークを開催しました。

また、同会場にて「ウェルネスフェス」を開催し、多くの来場者でにぎわいました。

◆参加人数・・・2,976 人（ウェルネスフェス含む）



よこはまシティウォーク

3 健康・体力づくりの推進事業【定款第 4 条第 1 項第 1 号、第 3 号、第 4 号、第 5 号】

心身両面の健康保持のため、ライフステージに応じたスポーツ活動や健康づくりのための取り組みを進めました。

(1) 子どもの体力向上事業

ア 子どもの体力向上支援事業

小・中学校、地域人材等と協働し、体力向上や運動の習慣化につながる取り組みを行いました。

総合学習の時間や学校保健委員会では、外遊びを通じた運動の紹介、パラスポーツ体験、けが予防や姿勢の改善などをテーマに、ストレッチや講座なども行いました。

	小中学校への訪問事業
実施回数	38 校、45 回
参加人数	延べ 8,927 人



学校保健委員会

イ はつらつキンダー事業

保育園において、運動・遊びを通じて体を動かす楽しさを伝える中で、幼児期に必要な多様な動きの習得や、生涯にわたってスポーツに親しむための基盤づくりにつながる事業を実施しました。

また、親子を対象としたイベントを横浜 BUNTAI で開催しました。



よしお兄さんと遊ぼう

事業名	実施回数	参加人数
保育園訪問運動指導	23 園、303 回	延べ 8,236 人
保育士研修	2 回	52 人

事業名	実施日	参加人数
よしお兄さんと遊ぼう	7 月 21 日（月・祝）	441 人（子ども 222 人・大人 219 人）
はつらつキンダーフェスタ 2025	10 月 13 日（月・祝）	882 人（子ども 432 人・大人 450 人）

ウ スポーツ少年団事業

市内のスポーツ少年団の普及と活動の活性化を進めながら、スポーツを通じた青少年の心身の健全な育成と、生涯スポーツの普及振興を図りました。

登録数	8競技、26団体		
指導者数	121人	団員数	121人

エ こどもマリンスクール事業

帆船日本丸を活用し、小学4～6年生を対象に、集団生活を通して、船員活動体験や海に関する学習、レクリエーション活動を行いました。今年度は、最終回にも日本丸の宿泊訓練を実施し、年間の成果を十分発揮しました。

実施日	6月21日(土)～11月9日(日) 10日間
会場	帆船日本丸・南伊豆臨海学園 ほか
参加人数	72人



こどもマリンスクール

今年度は、日本丸の日帰り海洋教室に参加する「日本丸 Sailor 体験」も実施しました。経済的理由で参加が困難な家庭※の児童は、参加料を全額免除として、誰もがスポーツ体験ができる機会を提供しました。

※横浜市の就学援助対象世帯

実施日	12月20日(土)
会場	帆船日本丸
参加人数	19人(うち就学援助対象者4人)



日本丸 Sailor 体験

(2)健康づくり支援事業

ア 講座・セミナー

地域指導者の養成やスキルの維持向上を目的とした講座を、資格の取得・資格の更新単位の取得ができる講座を含め、12 講座開催しました。

気象情報の理解を深め、選手のパフォーマンスや安全な大会開催について学ぶ講座、スポーツマンシップについて理解を深める講座を新たに開催しました。また、障害者スポーツ文化センター横浜ラポールと連携した講座を開催しました。

講 座 名	実施回数	参加人数
スポーツコーチングリーダー養成講習会	2回	28 人
介護予防運動指導員 養成講座	1 回(eラーニング 4 週間・集合 2 日)	6 人
スポーツリズムトレーニング ディフューザー(SRT)	1 回	19 人
リズムステップ ディフューザー(RS)	1 回	16 人
天気を味方に！指導者向け安全対策セミナー	1 回	17 人
風船エクササイズセルフメディケーション	1 回	13 人
姿勢改善プログラム	1 回	24 人
肩こり・膝・腰 お悩み改善プログラム	1 回	24 人
脳トレセミナー	1 回	26 人
子どもの成功体験を UP させる！～マット運動編～	1 回	5 人
スポーツマンシップとは！？	1 回	10 人
身体整えセミナー	1 回	21 人
ジュニアコンディショニングと障害者スポーツ～TNC&ACP～	1 回(2日間)	11 人
合 計		220 人

イ 健康体力づくり派遣指導事業

地域へ出向き、生活習慣の改善や介護予防の推進に必要な運動習慣のきっかけづくりなどにつながる姿勢測定プログラム等を提供し、市民の健康づくりを推進しました。

また、区役所、区スポーツ協会と連携したイベントや、ショッピングモール、公会堂を利用したスポーツ体験会を実施しました。 ◆参加人数・・・20,155 人



港北区健康づくりイベント姿勢測定

ウ ウェルネスプログラムサービス事業

オリジナルプログラム「YSA ジョイウェルコンセプト」を活用して、「関節ととのえ塾」、「パーソナルコンディショニング事業」を実施しました。

サービス名	参加人数
関節ととのえ塾(集団教室)	540 人
パーソナルコンディショニング	188 人

エ 健康経営支援事業

働く世代の健康づくりや職場におけるスポーツ実施の取り組みを支援するため、企業や団体に向けた健康・運動プログラムの提案（開発）や健康づくりの専門家派遣、オリジナルの種目を取り入れた企業向けの運動会をトータルサポートしました。7月18日には、健康経営を支援する民間企業と連携し、企業の健康経営担当者向けセミナーを実施しました。

事業内容	企業数	実施回数
運動会	2企業	3回
企業訪問指導（講座・セミナーなど）	16企業	18回
合計		21回



企業運動会

(3)企画事業

ア コンサル事業

施設管理の実績から、たきがしら会館の施設運営に関するコンサルティング業務をはじめ、当協会が管理する施設の広告枠の協賛セールスを行うなど、企業とのマッチングに取り組みました。また、「日本カーリング選手権大会」の運営受託実績から、「WTT チャンピオンズ横浜 2025」の運営の一部を受託しました。

イ PFI 関連事業

新たな PFI 事業の獲得に向けて、関連情報の収集などを行いました。

ウ 旧市庁舎街区活用事業

2026 年 3 月に開業した BASEGATE 横浜関内タワー内に、横浜最大級のラグジュアリージム「YSA スポーツと医科学のジム 横浜関内」をプレオープンしました。

※2026 年 4 月には、ジムの開業とともに併設するスポーツ医療拠点「YSA スポーツと医科学のクリニック 横浜関内」も開院しました。

エ 広報マーケティング事業

新規ビジネス獲得を目的とした当協会のプロモーション施策として計画している公式ウェブサイトのリニューアルに着手しました。

4 スポーツ人材の養成・育成・活用事業【定款第4条第1項第1号、第4号】

スポーツ指導者・ボランティアの養成を通じ、市民が運動・スポーツに対する正しい知識や技術を身に付けられる環境づくりを行いました。

(1) 指導者養成事業

ア スポーツ人材養成・活用事業

身近な地域でスポーツ振興のために活動できる人材を養成するため、「横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座」を9講座開催しました。うち1講座は、子ども・子育ての運動指導に焦点を当てた内容で、新たにシンポジウム形式で開催しました。

また、講座修了者を含め、地域での活動者を支えるため、横浜市スポーツ人材活用システム登録者制度を運用し、活動機会の情報提供や研修を実施しました。

登録者には、指導が安心してできるよう、指導現場でおこる事故等に対する補償制度を整えて提供しました。

講習会名	開催日	参加人数
横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座	6月～12月 全9回	317人
介護予防事業 体力測定補助員研修	通年(11回)	12人
人材登録者研修(補償制度・アイスブレイク・救急法)	3月1日・2日(2回)	30人
合計		359人

横浜市スポーツ人材活用システム活動実績	活動登録者数	133人
	指導件数(延べ)	13,162件
	指導対象者(参加者)数(延べ)	261,507人

イ 指導者技術向上事業

競技スポーツの指導技術、競技技術、審判技術などの向上を目的に、加盟競技団体・加盟地域団体が開催する研修会等に、経費の一部を助成しました。

実施団体	参加人数	実施団体	参加人数
横浜市卓球協会	135人	横浜市ゲートボール連合	52人
横浜市剣道連盟	244人	横浜市ローイング協会	25人
横浜市山岳協会	20人	横浜市インディアカ協会	17人
横浜市スキー協会	13人	横浜市ダンススポーツ連盟	100人
横浜市バドミントン協会	80人	横浜市日本拳法連盟	13人
横浜市空手道連盟	18人	泉区スポーツ協会	75人
		合計	792人

(2) スポーツボランティアセンター運営事業

横浜市スポーツボランティアセンターを運営し、市民のボランティア参加を推進しました。

また、令和7年11月16日(日)および29日(土)に「施設から学ぶパラスポーツ(講義)」と「車いすバスケットボール体験(実技)」の2回の会員向け研修を開催しました。

活動登録者数(令和8年3月末時点)	16,387人
募集件数	57件
募集人数	9,846人
研修参加人数 (11/16(日)26名、11/29(土)18名) ※各日定員 30名)	44人



横浜マラソン 2025 での活動

5 スポーツ情報の収集・提供と調査研究【定款第4条第1項第2号】

スポーツ情報の発信やスポーツに関する調査を通じて、スポーツを「知る」機会を提供しました。

(1) スポーツ情報サイト運営事業

横浜市内の最新のスポーツ・レクリエーション情報を幅広く収集し、市民が「する」「みる」「ささえる」「ふれる」といったスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツ情報サイト「ハマスポ」やSNS等を活用してスポーツ情報を提供しました。インクルーシブスポーツの紹介ページを新設し、誰でも参加できるスポーツ体験会の開催情報等を発信しました。

◆ハマスポ実績

主なコンテンツ	・市内スポーツイベント等のお知らせ・レポート記事(95件) ・著名人コラム(13件) (執筆者: あんどうたかお氏、苅部俊二氏、障害者スポーツ文化センター横浜ラポール) ・ウォーキングコース情報(458件)、各団体からの情報をまとめて提供				
保有情報件数	施設情報 1,475件	サークル情報 88件	指導者情報 76件	イベント・教室情報 685件	合計 2,324件
アクセス数	944,400件				

6 インクルーシブスポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号、第5号】

障害の有無や年齢、性別、国籍等に関わらず、すべての人がスポーツに親しむことができる環境を整備しました。

(1) インクルーシブスポーツ推進事業

市内19箇所において、地域団体等と連携し、公共施設や駅前広場、公園など身近な場所でインクルーシブスポーツ体験会を実施しました。

◆参加人数・・・2,677人



中区でのインクル事業

(2) パラスポーツ推進事業

加盟競技団体等と協働し、パラスポーツ競技大会や体験会を開催しました。また、参加者が多種目体験できる加盟競技団体合同の体験会「インクルーシブスポーツキャラバン」を令和8年2月8日（日）に横浜国際プールで開催しました。

事業名	実施団体	参加人数
パラスポーツ 競技大会や体験会	3団体 (1団体中止)	258人
インクルーシブ スポーツキャラバン	10団体	201人



インクルーシブスポーツキャラバン

(3) ゆるスポーツ事業（スポーツ共創事業）

小学校においてスポーツ共創事業として、学校やクラスの「オリジナルゆるスポーツ」を創りました。創ったスポーツは、学校内のほか、「三ツ沢公園感謝デー」でも披露し、地域の方と一緒にスポーツに親しむ機会を提供しました。

令和8年2月21日（土）には、三井アウトレット横浜ベイサイドにて、創ったスポーツを中心にゆるスポーツ運動会も開催しました。



ゆるスポ発表会！

(4) 第1回ヨコハマモルック交流会 / ピックルボール教室

令和8年3月15日（日）、三ツ沢公園補助陸上競技場にて「第1回ヨコハマモルック交流会」を開催しました。

当日は多くの参加者が集まり、初心者から経験者まで幅広い層がモルックを楽しみながら交流を深めました。

また、令和8年2月20日から3月13日までの毎週金曜日には、旭スポーツセンターにてピックルボール初心者向け教室を開催しました。



モルック交流会

事業名	実施日	参加人数
第1回ヨコハマモルック交流会	3月15日（日）	延べ30人
ピックルボール教室	2月20日～3月13日（全4回）	61組（171人）

(5) YOKOHAMA スポーツ・レクリエーションフェスティバル

スポーツの日を中心に市内スポーツ施設で開催されたスポーツイベント「YOKOHAMA スポーツ・レクリエーションフェスティバル 2025」における中央イベントとして、インクルーシブスポーツ体験プログラムの運営や体力測定を行いました。

イベント内では、「夏季デフリンピック競技大会東京 2025」の開催に向けて機運の醸成も図りました。



実施日	10月13日(月・祝)
会場	新横浜公園
参加人数	5,775人

7 スポーツ団体育成・支援等事業【定款第4条第1項第1号、第5条第1項第2号】

スポーツに関わる団体等を支援し、横浜のスポーツの振興を図りました。

(1) 顕彰事業

ア 横浜スポーツ表彰事業

体育・スポーツの普及振興に顕著な功績のあったもの、また、著名な大会で優秀な成績を収めた個人 221 名、団体 24 チームを表彰しました。

また、「第 25 回夏季デフリンピック競技大会東京 2025」において顕著な功績を残した横浜市ゆかりの選手に、横浜市長及び公益財団法人横浜市スポーツ協会会長の連名で、横浜市スポーツ栄誉賞を贈呈しました。

賞名称	受賞人数・チーム
横浜市スポーツ栄誉賞	7名
スポーツ功労賞	37名
優秀指導者賞	9名
優秀選手賞	112名・17チーム
スポーツ奨励賞	56名・7チーム
計	221名・24チーム

イ スポーツ普及功労賞事業

加盟地域団体構成員で、地域においてスポーツの普及振興やスポーツクラブ育成のために寄与された個人 24 名に対し、横浜スポーツ普及功労賞を授与しました。

ウ 新春横浜スポーツ人の集い

令和 8 年 1 月 23 日（金）横浜武道館にて、「第 60 回新春横浜スポーツ人の集い」を実施しました。第 1 部では横浜スポーツ表彰式典、第 2 部では祝宴（賀詞交歓会）を開催し、表彰者を称えとともに多くのスポーツ関係者の相互交流を図り親睦を深めました。

◆参加人数・・・883 人

(2) 団体支援事業

ア 加盟団体助成事業

加盟団体の組織運営や各団体が自主的に実施するスポーツの普及・振興事業に係る経費に対して、助成金を交付しました。

(3) 来浜事業

横浜市少年自然の家が設置されている群馬県昭和村及び静岡県南伊豆町の児童 93 人を横浜に招待し、横浜への理解と親しみを深めてもらう事業を実施しました。

町村名	日程	児童数
群馬県昭和村	8月28日(木)～29日(金)	44人
静岡県南伊豆町	10月6日(月)～7日(火)	42人

8 スポーツ施設の運営事業【定款第4条第1項第5号、第5条】

35 施設の安全・安心な管理・運営を通して、スポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる「場・機会」を提供しました。

◆主な施設の利用状況(前年度比較)

施設	令和7年度	令和6年度	R7/R6
横浜市スポーツセンター (12 施設)	2,661,217 人	2,352,147 人	113.1%
横浜市平沼記念体育館	170,504 人	144,335 人	118.1%
横浜市青少年野外活動センター	58,123 人	56,631 人	102.6%
横浜市少年自然の家	20,967 人	19,505 人	107.5%
横浜国際プール	673,097 人	603,873 人	111.5%
新横浜公園	1,704,301 人	1,757,625 人	96.7%
三ツ沢公園	493,816 人	613,749 人	80.5%
横浜市スポーツ医科学センター	228,289 人	186,591 人	122.3%
テニスガーデン	168,447 人	159,298 人	105.7%
横浜銀行アイスアリーナ	256,039 人	231,101 人	110.7%
横浜武道館	745,262 人	723,158 人	103.1%
横浜 BUNTAI	489,464 人	382,051 人	128.1%

(1) 指定管理施設

ア 横浜市スポーツセンター

スポーツセンター12館（神奈川・西・南・保土ヶ谷・港北・青葉を除く）では、安全・安心な利用に留意して、トレーニング室や卓球・バドミントン等の個人利用を実施し、各種スポーツの団体利用、区民大会・市民大会等が開催されました。

また、幼児から高齢の方までを対象とした各種スポーツ教室を実施したほか、インクルーシブスポーツやパラスポーツの要素を取り入れた各種イベントを開催し、スポーツ・レクリエーション活動を推進しました。



鶴見スポーツセンター
オリンピックに教わる体操教室

なお、横浜市による工事のため4施設は、長期休館しました。

①天井改修等工事

- ・金沢スポーツセンター：令和6年5月20日から令和7年6月9日まで
- ・都筑スポーツセンター：令和6年6月1日から令和7年4月13日まで
- ・瀬谷スポーツセンター：令和6年6月1日から令和7年4月14日まで

②空調設置工事

- ・泉スポーツセンター：令和7年9月1日から令和8年3月31日まで

◆利用実績

施設名	利用人数	(うち、個人利用人数)	施設名	利用人数	(うち、個人利用人数)
鶴見	229,463 人	(73,532 人)	緑	208,428 人	(54,934 人)
中	202,199 人	(50,025 人)	都筑	156,825 人	(31,817 人)
港南	264,467 人	(42,019 人)	戸塚	323,668 人	(96,001 人)
旭	227,303 人	(40,945 人)	栄	307,842 人	(83,107 人)
磯子	238,637 人	(58,252 人)	泉	91,522 人	(29,065 人)
金沢	187,056 人	(36,217 人)	瀬谷	223,807 人	(53,848 人)
スポーツセンター利用人数合計		2,661,217 人 (うち、個人利用人数は、649,762 人)			

イ 横浜市栄公会堂

栄スポーツセンターと一体管理となっている栄公会堂では、各種文化イベントが開催されました。また、講堂や諸室を利用した自主事業では、コンサートや伝統芸能などの文化行事を開催し、多くの皆様にご来館いただきました。

◆利用実績

団体数	2,611 団体	利用人数	134,046 人
-----	----------	------	-----------

ウ 横浜国際プール

横浜市スポーツ協会、コナミスポーツ(株)、(株)トーリツとの3者で共同事業体を形成し、プールやトレーニングルーム、テニスコートなどの管理運営を行ったほか、各種スポーツ・文化教室を開催しました。メインプールでは7月12日・13日に「第4回インクルーシブ水泳競技大会」を主催し、日本代表内定の選手36人を紹介するなど、大会を盛り上げました。また、8月27日から31日まで「第101回全日本インカレ学生選手権水球 2025」が開催され、白熱した試合が展開されました。

メインプールをスポーツフロア化した冬季期間では、横浜ビー・コルセアーズのホームアリーナとして活用され、Bリーグの公式戦25試合が行われました。また新たにTリーグ（プロ卓球リーグ）を招聘し、1月9日から11日までの間で木下アビエル神奈川・木下マイスター東京のホームゲーム会場として使用されました。



障害有無にかかわらず参加できる
インクルーシブ水泳大会を主催



Tリーグ試合前セレモニー

◆利用実績

種別	利用人数
個人利用	263,741 人
団体利用	31,123 人
優先利用人数(大会等)	260,119 人
教室参加人数	118,114 人
合計	673,097 人

◆主な行事

大会・行事名	開催月	入場者数
第101回日本選手権水泳競技大会 水球競技	6月6日～8日	9,160 人
第4回 インクルーシブ水泳競技大会	7月12日～13日	2,110 人
第101回全日本インカレ学生選手権水球 2025	8月22日～25日	3,825 人
B1リーグ横浜ビー・コルセアーズホームゲーム 25 試合	4月～3月	109,211 人
Tリーグ(木下アビエル神奈川、木下マイスター東京)	1月10日～11日	6,181 人
テニス日本リーグ	12月3日～7日	2,533 人
1st ステージ、2st ステージ、ファイナルステージ	1月21日～25日	3,603 人
	2月12日～15日	2,815 人

エ 横浜武道館

株式会社 YOKOHAMA 文体の構成員として、横浜武道館の管理運営を行いました。武道館 2 階のアリーナの稼働率は 96.3%、1 階の武道場 67.9%、多目的室 74.5%となり、多種多様なスポーツ・文化系団体、興行団体にご利用いただきました。

貸館事業の他、市民の皆様の心身における健康維持増進、子どもの体力向上等を目的としたスポーツ及び文化系教室事業、約 40 プログラムを提供しました。教室参加人数は年間延べ約 2.2 万人となりました。

また、近隣団体等との連携・協力事業として「埋地のミニ夏まつり」は今年で 4 回目となりました。

当館をイベント会場の一つとし、毎年多くの地域住民で賑わう地域の恒例イベントとして定着しつつあります。



第 40 回皇后杯全日本女子
柔道選手権大会



ブラインドサッカー トップリーグ 2025



第 4 回 埋地のミニ夏まつり

◆利用実績

利用団体数	利用人数
5,566 団体	745,262 人

◆主なイベント

イベント名	開催月日	入場者数
第 40 回皇后杯全日本女子柔道選手権大会	4 月 20 日	約 1,500 人
JOC ジュニアオリンピックカップ大会 2025 年度全日本ジュニアオリンピックレスリング選選手権大会	4 月 26 日・27 日	約 2,000 人
CHILL CLASSIC CONCERT2025	5 月 3 日・4 日	約 5,400 人
キン肉マン超人祭	8 月 3 日	約 2,000 人
アジア(太平洋)ベテラン卓球選手権大会横浜 2025	10 月 7 日～11 日	約 6,000 人
W リーグユナイテッドカップ 2025ー26 ファイナルステージ	2 月 14 日～16 日	約 4,200 人
ブラインドサッカー トップリーグ 2025	2 月 23 日	約 1,500 人
CINDERELLA TOURNAMENT2026 優勝決定戦(女子プロレス)	3 月 15 日	約 1,800 人
B2・B3リーグ 横浜エクセレンスホームゲーム 28 試合	4 月～3 月	約 60,000 人

オ 横浜 BUNTAI

開館から2年目を迎え、利用団体数、利用人数共に前年度を大きく更新しました。

「YOKOHAMA B.Block Fes」や「YOKOHAMA UNITE 音楽祭」といった地域と連携した自主事業も開催し、PFI事業での民間企業のノウハウを活用した事業も展開しました。

8月には、2025シーズン唯一の日本国内での開催となる卓球国際大会のWTTシリーズである、「WTT チャンピオンズ横浜 2025」が開催されました。横浜で行われる卓球の国際大会は、2019年に横浜文化体育館にて行われた「第32回 LION ITTF-ATTU アジアカップ」以来6年ぶりとなります。大会を通じて多くの日本人選手が活躍を見せ、男子においては張本智和選手が優勝し、様々なメディアにも取り上げられ大きな注目を浴びました。

その他、コンサートの興行だけでなく、各競技団体の国際・全国規模の大会も複数開催されたほか、中体連市大会などの市民利用も行われました。

◆利用実績

利用団体数	利用人数
109 団体	489,464 人

◆主なイベント

イベント名	開催月日	入場者数
B1リーグ横浜ビー・コルセアーズホームゲーム(vsファイティングイーグルス名古屋)	5月3日・4日	8,936人
K-1 WORLD GP	5月31日	4,200人
文部科学大臣賞争奪 第20回 オールジャパン・ジュニアダンススポーツカップ2025	7月19日・20日	1,900人
WTT チャンピオンズ横浜 2025	8月7日～11日	36,131人
第11回3×3日本選手権大会	2月21日・22日	10,000人
バドミントン S/Jリーグ 2025 TOP4 Tournament	2月28日～3月1日	5,923人
帝拳ボクシング	3月15日	3,715人
B2リーグ 横浜エクセレンスホームゲーム(vs福井ブルーウィングス)	3月20日～21日	8,827人

カ 横浜市平沼記念体育館

三ツ沢公園の一角にある平沼記念体育館の管理運営を行いました。

フットサルやハンドボールなどの各種団体・チームに数多く利用されたほか、一般社団法人カルティベータが主催する多文化共生スポーツイベント「アジアスポーツフェスタ」やFMヨコハマ主催の「ちょどいい運動会」などの各種大会・イベントが開催されました。

また、平沼亮三氏に関する品々を展示した資料室や展望室を開放し、同氏の偉業の周知に努めるため、「展望室に行こう!」や「見学クイズラリー」などのイベントを行いました。

◆利用実績

種別	利用人数
個人利用	1,944人
団体利用(4,165 団体)	163,241人
スポーツ等教室(全18教室)	5,319人
合計	170,504人

キ 横浜市青少年野外活動センター

三ツ沢公園（神奈川区）、くろがね（青葉区）、こども自然公園（旭区）の各青少年野外活動センターの管理運営を行いました。

青少年への集団宿泊体験の場の提供や、自然環境を生かしたプログラムの指導及び野外活動教室事業を実施しました。

◆利用実績

施設名	団体数	延べ利用人数
三ツ沢公園	481 団体	13,859 人
くろがね	930 団体	14,098 人
こども自然公園	887 団体	30,166 人
合計	2,298 団体	58,123 人

◆野外活動教室の実施

施設名	教室数	延べ参加人数
三ツ沢公園	22 教室	2,725 人
くろがね	24 教室	3,002 人
こども自然公園	15 教室	5,441 人
合計	61 教室	11,168 人



三ツ沢公園青少年野外活動センター
「家族でデイキャンプ」

ク 横浜市少年自然の家

赤城林間学園（群馬県）及び南伊豆臨海学園（静岡県）の管理運営を行いました。

シーカヤック、ハイキング、自然観察、創作活動などの自然体験等の学習の場を提供しました。

◆利用実績

施設名	団体数	延べ利用人数
赤城林間学園	169 団体	14,378 人
南伊豆臨海学園	110 団体	6,589 人
合計	279 団体	20,967 人

◆野外活動教室の実施

施設名	教室数	延べ参加人数
赤城林間学園	23 教室	906 人
南伊豆臨海学園	12 教室	1,088 人
合計	35 教室	1,994 人



南伊豆臨海学園
「カヤックツアー」

ケ 新横浜公園／日産スタジアム等

横浜市スポーツ協会、F・マリノススポーツクラブ、管理JV（ハリマビシステム他4社）が共同事業体を構成し、日産スタジアムを含む新横浜公園（67.8ha）の管理運営を行いました。

日産スタジアムでは、横浜F・マリノスホームゲーム全20試合、明治安田Jリーグワールドチャレンジ2025横浜F・マリノスVSリヴァプールFC戦1試合、ジャパンラグビーリーグワン（横浜キヤノンイーグルス戦）2試合のほか、7万人規模でのコンサート（3公演6日間）が行われました。

水と緑が豊かな新横浜公園では、四季折々の生きもの観察会等を実施するとともに、新たに設置された相撲場においては令和8年度一般供用開始に向けて、試験的な運用を実施しました。そのほか、園内の各施設（運動広場など）は市民大会や区民大会等にぎわいました。

◆利用実績

施設名	利用人数
日産スタジアム(国内最大7万2千人収容)	1,118,471人
日産フィールド小机	36,397人
日産ウォーターパーク	106,140人
新横浜公園内有料施設(北側園地)	139,481人
新横浜公園内無料施設(イベント利用のみ)	166,094人
しんよこフットボールパーク	80,200人
ドッグラン	57,518人
合計	1,704,301人



Jリーグ 横浜F・マリノス戦

①日産スタジアム（日本陸連第1種公認陸上競技場）

◆主なイベント

イベント名	開催月	入場者数
Jリーグ横浜F・マリノスホームゲーム (ルヴァンカップ準々決勝含む21試合)	4-3月	567,503人
明治安田Jリーグワールドチャレンジ2025 横浜F・マリノスVSリヴァプールFC	7月	67,032人
ジャパンラグビーリーグワン(2試合)	12,3月	37,362人

②日産フィールド小机（日本陸連第3種公認陸上競技場）

◆主なイベント

イベント名	開催月	入場者数
JA全農チビリンピック2025	5月	3,000人
神奈川県高等学校駅伝競走大会	11月	1,300人
港北駅伝大会	1月	1,450人

③日産ウォーターパーク（温水利用型の22種類のプール）

④北側園地有料施設（野球場、運動広場第1・第2、投てき練習場、テニスコート、ドッグラン、球技場）

- ⑤新横浜公園内無料施設（スケボー広場、インラインスケート広場１・２、バスケットボール広場、壁打ちテニスコート、公園内園路、広場等）

コ ミツ沢公園

横浜市スポーツ協会、横浜市緑の協会が共同事業体を構成して運営する、ミツ沢公園のうち、ニッパツミツ沢球技場、陸上競技場、補助陸上競技場及び馬術練習場の管理運営を行いました。

球技場では、Ｊリーグ、なでしこリーグなどの利用がシーズンを通して行われ、ジャパンラグビー リーグワンなどの利用もあり、稼働率の非常に高い施設の運営を着実に行いました。

陸上競技場では、市や県の陸上記録会、各種市民大会や区民大会等を開催し、９月以降は、第２種公認競技場の資格更新のための施設改良工事の調整を実施しました。

そのほか、「親子ラグビー教室」、球技場の芝生に入ることができる「芝生にふれよう」、横浜サッカー協会と共催での「ガールズカップ」、馬術練習場での「馬に親しむ会」などの自主事業を行いました。

◆利用実績

施設	利用人数
ニッパツミツ沢球技場	327,916 人
ミツ沢陸上競技場	74,419 人
ミツ沢補助陸上競技場	78,713 人
馬術練習場	12,768 人
合計	493,816 人



ニッパツミツ沢球技場

◆主なイベント（ニッパツミツ沢球技場）

イベント名	開催月	入場者数
J1横浜FCホームゲーム 18試合（ルヴァンカップ含む）	4-11月	170,536 人
J2横浜FCホームゲーム 5試合	2-3月	37,115 人
JFL Y.S.C.C. ホームゲーム 12試合	4-3月	18,923 人
なでしこリーグ1部（日体大 SMG 横浜、ニッパツ横浜FCシーガルズ）19試合	4-3月	15,478 人
サッカー天皇杯 4試合	4-6月	8,270 人
第104回全国高等学校サッカー選手権大会 1回戦、2回戦	12月	17,126 人
ジャパンラグビー リーグワン 2試合	1月	14,283 人



ジャパンラグビー リーグワン



ブラインドサッカー体験会



馬術練習場 餌やり体験

サ 横浜市スポーツ医科学センター

クリニック（内科・循環器内科・整形外科・スポーツ整形外科・リハビリテーション科）、大・小アリーナ（体育館）、25mプール、トレーニングルーム、研修室などの管理運営を行いました。施設の特性を活かし、体操・水泳などのスポーツ教室や健康教室のほか、筋力向上・姿勢改善教室などの目的別教室等を実施しました。また、プロや実業団のスポーツチーム等を対象としたメディカルチェックや各競技に即した専門的な体力測定を実施しました。

①スポーツプログラムサービス（SPS）

医学的検査・運動負荷試験・体力測定の実施結果により、生活・栄養・運動について、医師・管理栄養士・スポーツ科学員などの専門スタッフがアドバイスする「スポーツ版人間ドック」を行いました。

②クリニック（内科・循環器内科・整形外科・スポーツ整形外科・リハビリテーション科）

スポーツ医学に基づく様々な治療をアマチュアからトップアスリートに対して提供しました。また令和7年度より理学療法室エリアを拡大し、リハビリテーション科の理学療法士を増員したことで、より多くの患者を受け入れています。

③メディカルエクササイズコース（MEC）

内科的・整形外科的疾患を抱え、積極的に運動することで改善が望める方を対象にした医学的運動療法を実施しました。

④講座・講演

行政や競技団体からの依頼を受け、管理栄養士や理学療法士、運動指導員等が講師となり、健康に関する講演や実技指導を行いました。

⑤産官学連携による事業推進

北里大学や岩崎学園と連携協定書を締結しており、共同研究やスポーツを通じた人材育成、社会貢献事業を共同実施しています。令和8年3月30日には新たに豊橋創造大学との連携協定を締結しました。

◆利用実績

種別		人数
スポーツプログラムサービス		1,043 人
クリニック	内科	3,163 人
	整形外科	26,520 人
	リハビリテーション科	52,515 人
	MEC	10,230 人
施設利用		73,335 人
講座・講演		337 人
自主事業		61,146 人
合計		228,289 人



豊橋創造大学との
連携協力協定書締結式

(2) その他施設

ア 横浜銀行アイスアリーナ

国際規格を満たすスケートリンク施設の管理運営を行い、一般滑走利用や氷上スポーツ団体への貸出を通じて、氷上スポーツの普及・振興に努めました。また、諸室や空きスペースを有効活用し、各種教室事業やイベント事業を開催しました。

さらに、当リンクを拠点に活動するフィギュアスケート選手の育成にも注力し、世界大会で上位入賞を果たした選手をはじめ、多くの選手が国内競技大会において優秀な成績を収めたことで、当リンクへの注目が高まりました。

加えて、学校団体の利用促進を目的として、市立学校教員向け研修会を開催したほか、近隣小学校の「総合的な学習」の取組に協力しました。



◆利用実績

一般利用者	79,294 人
団体利用者	8,973 人
貸切利用者	58,932 人
教室利用者	103,611 人
その他	5,229 人
合計	256,039 人

◆主なイベント

イベント名	開催月	参加人数
アイスフェスティバル 2025	5月	909 人
秋のうみそらまつり (こどもホスピスでの氷のあそびば)	9月	220 人
スポレク 2025 親子スケート教室	10月	254 人
リニューアル 10 周年イベント	11月	349 人
横浜銀行 Presents 親子スケート教室	1月	245 人

イ 横浜市鶴見川漕艇場

ボートやカヌーなどの水上スポーツの場としての利用に供しました。

また、ボートなどの艇や艇庫の貸出しを行いました。

主催事業としては、初心者を対象としたボート教室を開催し、年間で 271 人の参加がありました。

令和 7 年 9 月に「横浜市鶴見川漕艇場安全管理運営要綱」を制定して、安全推進の強化を図りました。

◆利用実績

艇利用数	3,177 艇
利用人数	19,909 人



ウ 屋外プール(横浜プールセンター)

横浜市との調整のうえ、施設の老朽化等の理由により営業を休止しています。

エ テニスガーデン

緑テニスガーデン（10面）、根岸テニスガーデン（9面）、泉中央テニスガーデン（11面）の管理運営を行いました。テニスコートの一般貸出しを行ったほか、子どもから大人まで広く市民が参加できるテニス教室を開催しました。

◆利用実績

施設名	利用人数(合計)	貸コート人数	教室参加人数	イベント参加人数
緑テニスガーデン	49,648 人	35,215 人	12,393 人	2,040 人
根岸テニスガーデン	75,974 人	24,091 人	50,008 人	1,875 人
泉中央テニスガーデン	42,825 人	26,348 人	13,136 人	3,341 人
合 計	168,447 人	85,654 人	75,537 人	7,256 人

9 その他事業

(1) 横浜こどもスポーツ基金 【定款第4条第1項第1号、第5号】

寄附を原資とした「横浜こどもスポーツ基金」を活用し、スポーツを通じて、障害のある子どもたち等を支援・援助することを目的とした事業への支援活動を行いました。

ドリームアスリート助成として、全日本選手権等の出場実績がある、横浜ゆかりの選手を支援しました。横浜から世界に羽ばたくアスリートの支援を通じて、子どもたちの夢と希望を届けました。

◆団体への助成・・・1,211,000 円（8 件）

◆ドリームアスリートへの助成・・・3,400,000 円（3 名）

(2) 賛助会員事業 【定款第4条第1項第6号、第5条第1項第2号】

当協会が実施する各種事業を推進していくための財源として活用するため、協会の理念やそれに基づくさまざまな活動に賛同していただける、個人・団体からの寄付金を賛助会費として募りました。

(3) 新横浜駐車場の運営 【定款第5条第1項第2号】

横浜アリーナに近接する新横浜駐車場の運営を行いました。

種別	延べ利用台数
月極駐車場	11 台
時間貸駐車場	75,679 台

Ⅱ 処務の概要

1 評議員に関する事項【定款第11条】

(令和8年3月31日現在 評議員 27名)

No	役職	氏 名	所 属 等
1	評議員	石 島 孝 志	横浜市綱引連盟理事長
2	評議員	伊 藤 嘉 章	一般社団法人横浜市アーチェリー協会とみどりの会副会長
3	評議員	倉 又 明 美	横浜市なぎなた連盟理事長
4	評議員	小清水 秀 雄	横浜市山岳協会会長
5	評議員	小 島 永 三	横浜バスケットボール協会会長
6	評議員	田 邊 賢 一	横浜市スポーツチャンバラ協会会長
7	評議員	星 真 太 郎	特定非営利活動法人横浜市ボート協会理事
8	評議員	木 村 英 一	横浜市バドミントン協会理事長
9	評議員	近 藤 昌 弘	特定非営利活動法人横浜市馬術協会副会長
10	評議員	福 田 隆	横浜市ダンススポーツ連盟理事
11	評議員	山 崎 由 明	一般社団法人横浜水泳協会常務理事
12	評議員	山 本 美智子	特定非営利活動法人横浜市レジャー・レクリエーション連合理事
13	評議員	下 田 秀 美	保土ケ谷区スポーツ協会副会長
14	評議員	矢 島 孝 幸	横浜市立小学校体育研究会会長
15	評議員	三 木 英 之	横浜市医師会横浜スポーツ医会会長
16	評議員	上 條 浩	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団常務理事 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール館長
17	評議員	高 橋 和 子	横浜国立大学名誉教授、静岡産業大学教授
18	評議員	依 田 充 代	日本体育大学教授 オリンピックススポーツ文化研究所長 明治学院大学教養教育センター非常勤講師
19	評議員	沼 澤 秀 雄	立教大学スポーツウエルネス学部教授
20	評議員	筒 井 理	横浜エフエム放送株式会社 編成部長
21	評議員	壺 阪 敏 秀	株式会社テレビ神奈川取締役 編成局長兼報道局長
22	評議員	畠 山 卓 也	株式会社神奈川新聞社 統合編集局次長兼運動部長
23	評議員	高 柳 由美子	日本放送協会横浜放送局長
24	評議員	熊 坂 俊 博	横浜市にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興部長
25	評議員	小田嶋 鉄 朗	横浜市みどり環境局公園緑地部長
26	評議員	丹 羽 正 昇	横浜市教育委員会事務局学校教育企画部長
27	評議員	坂 本 今朝幸	横浜市南区スポーツ推進委員連絡協議会会長

1 評議員人事（定款第 11 条）

（1）令和7年4月 30 日付辞任

平元 亨

（2）令和7年7月 18 日付辞任

小田 治男

（3）令和7年7月 18 日付就任

三木英之、高柳由美子、丹羽正昇

（4）令和7年8月 31 日付辞任

真野太樹

（5）令和7年 11 月6日付就任

畠山卓也

（6）令和8年3月 31 日付辞任

熊坂俊博、小田嶋鉄朗

2 評議員選定委員会に関する事項（定款第 12 条）

	開 催 日	決議事項
1	7 月 18 日	・ 評議員の選任の件
2	11 月 6 日	・ 評議員の選任の件

3 評議員会に関する事項（定款第 16 条、第 17 条、第 20 条）

	開 催 日 等	決議事項
1	6 月 27 日	・ 令和 6 年度事業報告及び決算の承認の件 ・ 理事の選任の件 ・ 監事の選任の件 ・ 評議員候補者の推薦の件
2	10 月 15 日 （決議の省略の方法による）	・ 評議員候補者の推薦の件

2 役員に関する事項【定款第 22 条】

(令和 8 年 3 月 31 日現在 理事 20 名 監事 2 名)

No	役職	氏 名	所 属 等
1	会 長	山 口 宏	横浜野球協会会長・横浜野球連盟会長 中区スポーツ協会会長・㈱共栄社代表取締役社長
2	副会長 兼 専務理事	雨 宮 勝	専務理事
3	副会長	吉 備 カ ヨ	株式会社ジョビア代表取締役社長
4	副会長	石 井 和 則	一般社団法人横浜サッカー協会会長
5	副会長	平 岡 可奈之	横浜市卓球協会副会長
6	常務理事	小 池 道 子	事務局長 兼 総務経営局長
7	常務理事	藤 野 純	スポーツ施設局長 兼 スポーツ事業局長
8	常務理事	高 橋 寛	スポーツ事業局大規模スポーツイベント担当局長
9	常務理事	川 瀬 伸 二	警備統括監
10	常務理事	松 寄 尚 紀	公園管理局长
11	理 事	中 村 博	横浜ハンドボール協会副会長
12	理 事	柿 崎 政 治	横浜市ソフトボール協会常務理事
13	理 事	小 金 澤 光司	横浜市トライアスロン協会理事長
14	理 事	大 村 幸 雄	横浜市テニス協会副会長兼理事長
15	理 事	中 野 賢 一	一般社団法人横浜市陸上競技協会理事長
16	理 事	村 松 剛	旭区スポーツ協会副会長
17	理 事	新 野 雄 大	横浜地区高等学校体育連盟理事長
18	理 事	佐 々 木 玲子	慶應義塾大学名誉教授
19	理 事	西 山 雄 二	公益財団法人横浜市スポーツ協会スポーツイベントシニアコーディネーター
20	理 事	足 立 哲 郎	横浜市にぎわいスポーツ文化局長
1	監 事	齋 藤 貴 司	ベイ・タックス税理士法人代表社員税理士
2	監 事	林 賢 是	一般社団法人横浜市ラグビーフットボール協会理事長

1 役員人事（定款第 22 条）

(1) 令和 7 年 6 月 26 日付就任

松寄尚紀、大村幸雄、中野賢一、村松剛、新野雄大、林賢是

(2) 令和 8 年 3 月 31 日付辞任

小池道子、高橋寛、川瀬伸二

2 理事会に関する事項（定款第 31 条、32 条、35 条）

	開催日(決議成立日)	決議及び承認事項 等
1	6 月 10 日	・ 令和 6 年度事業報告及び決算の承認の件 ・ 評議員会の日時、場所及び付議する事項の決定の件 ・ 新規加盟団体の承認の件 ・ 業務執行理事の職務状況報告 ・ 役員候補者の報告
2	6 月 27 日	・ 役付理事の選定の件 ・ 顧問の退任の件 ・ 顧問の選任の件 ・ 専門委員会及び区スポーツ協会代表者会議の委員長及び委員の選任の件 ・ 評議員候補者の推薦の件
3	10 月 15 日 (決議の省略の方法による)	・ 評議員候補者の推薦の件
4	12 月 4 日	・ 令和 7 年度横浜スポーツ表彰被表彰者の決定の件 ・ 借入による資金調達 ・ 業務執行理事の職務執行状況（令和 7 年 6 -11 月） ・ 令和 7 年度横浜スポーツ普及功労賞被表彰者の件 ・ 横浜市旧市庁舎街区活用事業の進捗状況
5	3 月 25 日	・ 令和 8 年度事業計画書及び予算書の承認の件 ・ 理事の利益相反取引の承認の件 ・ 重要な職員の任命の承認の件

3 職員に関する事項【定款第 42 条】

固有職員	再雇用職員	一般職員	横浜市派遣職員	嘱託職員	合 計
162 名	10 名	8 名	4 名	76 名	260 名

（令和 8 年 3 月 31 日現在）

4 委員会に関する事項等【定款第 43 条】

1 専門委員会

委員会名	開催日	議題等
総務	11 月 7 日	賛助会員の状況報告、新春横浜スポーツ人の集い実行委員について、加盟団体の情報交換・活性化に向けて
市民スポーツ 競技 (合同開催)	8 月 22 日	各委員の所属団体の課題について、子どものスポーツ機会の創出について
市民スポーツ	11 月 26 日	令和 7 年度横浜スポーツ普及功労賞候補者（案）について
競技 (文書開催)	2 月 18 日 配信	令和 8 年度事業計画について（情報共有）

2 連絡協議会

	開催日	議 題
加盟団体代表者会議	11 月 19 日	新任常務理事の紹介・あいさつ・講演会
区スポーツ協会 代表者会議	6 月 16 日	委員長・副委員長の候補者推薦について、事務局機能の維持について、専門部（加盟団体）の活性化について
	9 月 1 日	事務局機能について、区スポーツ協会が取り組む公益的事業の助成について
	12 月 1 日	事務局機能について、公益的事業の助成について、協定書について

5 加盟団体に関する事項【定款第 44 条】

加盟競技団体	加盟学校団体	加盟地域団体	加盟 スポーツ団体	合 計
53 団体	3 団体	18 団体	1 団体	75 団体

Ⅲ 資料

1 中期計画達成状況

■第6期中期計画（令和7年度実績）

目標		施策	成果指標	年間		
				中期指標	結果	達成率
1 事業推進	(1) 公益的事業推進のための収益力強化	①職員の運動、健康指導スキルを活用した収益の拡大	健康・運動指導による収入額	67,000千円	61,872千円	92%
		②団体、企業等との共創による収益性を意識した取り組みの推進	①共創団体数（実団体数）	100団体	127団体	127%
			—	(172事業)	—	
		②収入額	174,000千円	237,543千円	137%	
		③コロナ禍以前（2018年度）に実現していた施設運営収入額(39億円)の達成	施設収入額	3,800,000千円	4,010,440千円	106%
		④施設運営以外の事業における参加料・協賛金・受託料の拡大	事業実施における補助金以外の収入額	64,000千円	67,630千円	106%
	⑤ドメインを踏まえた、PFI・指定管理の方針検討・決定、獲得	PFIや指定管理施設の獲得方針決定・獲得100%	・ステークホルダとの共創検討、決定 ・提案施設100%獲得	ステークホルダとの共創検討、決定	—	
	(2) スポーツに親しむ機会拡充によるスポーツの日常化	①教室やイベント、個人利用等の事業参加者数の拡大	事業参加者数	1,430,000人	1,691,129人	118%
		②参加しやすい会場（横浜市内）でのスポーツをする機会の拡大 ※当協会管理運営施設除く	スポーツ関連事業実施会場数	344会場	289会場	84%
		③ターゲットを明確にしたインクルーシブのスポーツイベントや教室事業の拡大	①事業数（実事業数）	69事業	67事業	97%
			②参加者数	2,900人	12,472人	430%
		④スポーツをささえるスポーツボランティアの育成・活躍の機会の充実	①事業数	195事業	178事業	91%
			②活躍人数	10,000人	15,514人	155%
		⑤加盟団体との連携による地域におけるスポーツをする機会の拡大	協働による事業を実施した加盟団体数	29団体	35団体	121%
		—	(80事業)	—		
	⑥デジタル技術等を活用した新たな事業や事業運営の効率化の推進	スポーツ×テクノロジーを活用した取り組みの実施	各局1件以上	7件	—	
	(3) 次世代を育む環境の構築	①親子、子育て世代がスポーツに親しみやすい機会を提供し、子育て世代の親と子が参加できる事業の充実	①事業数	1,200事業	1,400事業	117%
			②参加者数	33,100人	41,029人	124%
		②次世代へスポーツをつむぐため、こどもがスポーツに親しみやすい機会の拡充	①事業数	6,594事業	7,512事業	114%
			②参加者数	147,500人	189,471人	128%
		③協会100周年及びその後を見据えたプロジェクト「NEXT100（仮称）」の実施	100周年企画及びその先の未来へ	—	PJチームにて検討の方向性をまとめた	—
		④協会の活動の活性化を図るための取り組みの推進	協会の活動の活性化を図るための取り組みの実施	各局1件以上	7件	—
モチベーション向上 人材・組織力の最大化	(1) 人材・組織力の最大化	①職員の運動、健康指導スキル強化のための資格保有者の拡大	健康運動指導士やパーソナルトレーニング指導につながる専門資格取得者数	5人	7人	140%
		②職員自らが資格取得等に自発的にチャレンジし、事業を創り出す仕組みの導入	制度化	試験運用・制度化	内即育成制度の構築・試験運用完了	—
		③職員のモチベーションの向上につながる新人事評価制度の導入	新人事評価制度の構築	新人事評価制度の試行	新人事評価制度の試行完了・運用開始	—
		④部署間連携による事業拡大及び組織力の最大化	複数部署と連携した事業数	36事業	46事業	128%
3 財務	(1) 財政基盤の強化	①収入拡大により、短期的な財務状況の健全化の推進	流動比率	180.2%	159.8%	—
		②長期的な財務状況の健全化による新たな取り組みにチャレンジできる財政基盤の確立	自己資本比率	64.9%	53.9%	—
		③当協会100周年及びその後に向けて、公益目的事業を安定的、継続的に実施するための収益の確保	売上高経常利益率	2%以上	3.5%	—

2 賛助会員

※令和 8 年 3 月 31 日現在・50 音順・敬称略

※非公開希望者は掲載していません。

特別企業・団体（15）					
(有)旭屋	エクスポーション合同会社	(株)共栄社			
(株)キョーエーメック	(株)トリツ	(株) a・とも総合保険サービス			
東日本電信電話(株)	藤木企業(株)	藤木陸運(株)			
(株)プロアバンセ	(株)横浜アーチスト	横浜エレベータ(株)			
(一社)横浜サッカー協会	(株)横浜スタジアム	(株)ロイヤルホール			
企業・団体（44）					
(株)安藤スポーツ	(株)エイト	神奈川県民共済生活協同組合			
(株)環境造園	(有)関東化染工業所	(株)栗田園			
公益情報システム(株)	三機工業(株)	湘南建設(株)			
(株)スリーオークスコミュニティ	太洋歯科クリニック	たまプラーザ Stars Smiley			
東京体育用品(株)	(株)ハウジングカネコ	ベイ・タックス税理士法人			
松宮整形外科	丸五運輸（株）	(株)山野井			
横浜市合気道連盟	横浜市アマチュアボクシング協会	横浜市インディアカ協会			
横浜市空手道連盟	横浜市弓道協会	横浜市グラウンド・ゴルフ協会			
横浜市剣道連盟	横浜市柔道協会	横浜市少林寺拳法連盟			
横浜市スキー協会	横浜市スポーツチャンバラ協会	(一社)横浜市総合型地域スポーツクラブ協議会			
横浜市卓球協会	横浜市テニス協会	横浜市なぎなた連盟			
NPO 法人横浜市馬術協会	横浜市ボウリング協会	(株)横浜シミズ			
(一社)横浜市ラグビーフットボール協会	(一社)横浜市陸上競技協会	横浜市レディースバドミントン連盟			
(一社)横浜水泳協会	横浜バスケットボール協会	横浜野球協会			
横浜野球連盟					
特別個人（14）					
阿部 哲治	奥村 彩香	河原 智	菊池 侃二	日下 啓二	栗田 るみ
五反田 哲哉	高井 祿郎	田邊 賢一	南部 信治	濱 陽太郎	平岡 可奈之
山口 宏					
個人（55）					
相川 隆	秋山 聡	伊澤 万樹	石井 和則	伊藤 隆介	岩井 茂
岩倉 憲男	宇田川 ユキ子	梅田 巖	遠藤 和宏	大澤 眞治郎	大辻 明
小野 謙治	川戸 政角	河野 多恵子	小泉 隆志	小坂 恵美子	小坂 典次
小柴 邦幸	齋藤 裕昭	三枝 勝巳	佐藤 富美男	下田 秀美	庄司 勉
菅谷 久夫	杉浦 紀子	鈴木 信太郎	鈴木 常夫	鈴木 浩	清野 宏之
妹尾 愛子	高野 啓子	武居 和子	田中 義孝	千葉 誠	戸川 義光
富岡 俊次	中山 次	夏田 智子	菜花 好和	馬場 正徳	林 賢是
廣瀬 正春	堀内 芳子	牧 義一	松浦 隆	丸山 隆	道下 修三
矢島 孝幸	矢部 寛和	弓場 常正	横山 千代美	吉井 由里子	渡辺 良雄

公益財団法人横浜市スポーツ協会

〒231-0015

横浜市中区尾上町六丁目 81 番地

ニッセイ横浜尾上町ビル内

TEL 045-640-0011(代表)

FAX 045-640-0021

URL <https://www3.yspc.or.jp/>